



# クオリティインディケーター(QI)成果報告 〔産婦人科〕

## 指標名

帝王切開時のインシデントを減少させることで医療の質の向上する

## 目標・ゴール

帝王切開時のインシデントを年5件以内に抑える

## 目標・ゴール達成による効果

母児の安全を担保することで医療の質の向上する

## 目標・ゴールに対する成果の状況

レベル2以上のインシデントの発生件数（アクシデントの絶対数が少ないので対象を広げた）

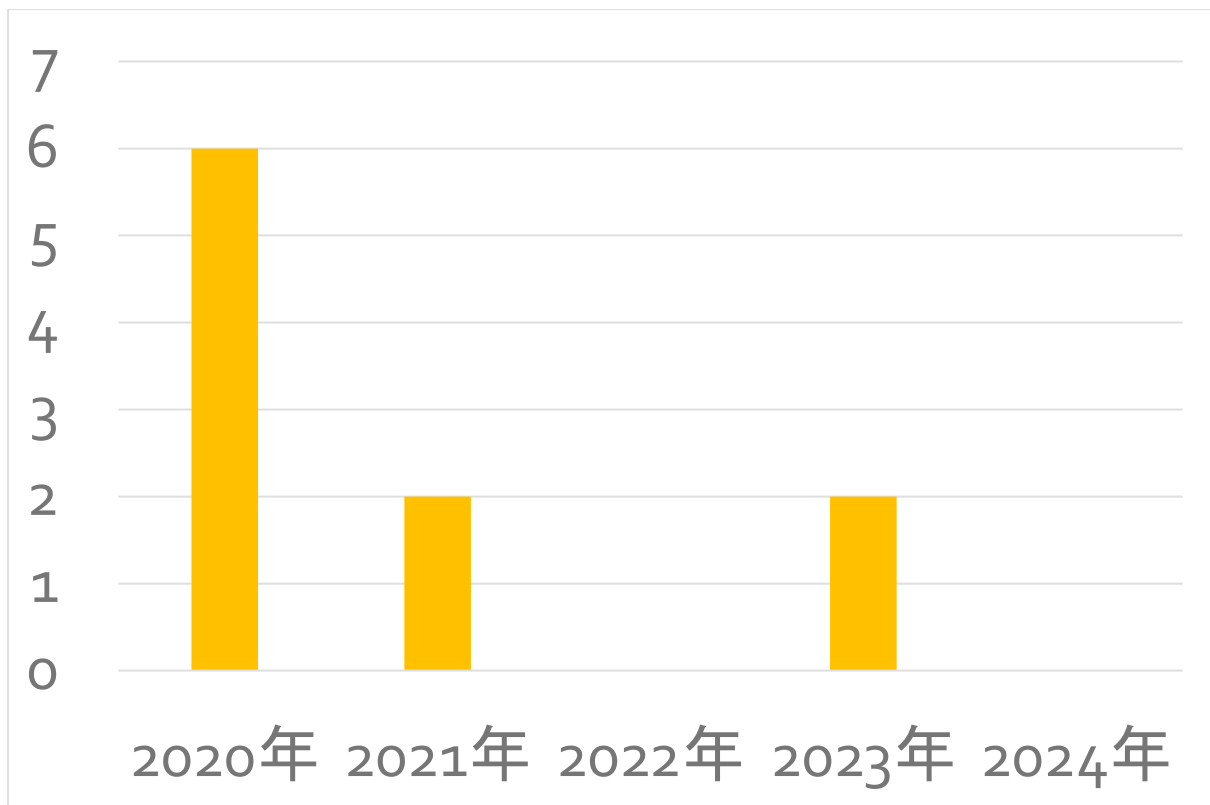
2019年12月～2020年11月 6件/年

2020年12月～2021年11月 2件

2021年12月～2022年11月 0件

2022年12月～2023年11月 2件

2023年12月～2024年4月 0件



## 目標・ゴール達成度

※該当項目に☑をつけてください

- ☐ S : 大幅に目標を上回った
- ☐ A<sup>+</sup> : 目標を多少上回って達成
- ☒ A : 目標を達成
- ☐ B<sup>+</sup> : 目標を少し下回った
- ☐ B : 目標を下回った
- ☐ C : 目標を大幅に下回った
- ☐ - : 外的要因により継続困難となった。

## 目標・ゴールの課題・改善策

引き続き、産婦人科スタッフへ、帝王切開中のインシデント・合併症を防ぐための手技の確認や合併症症例の共有を定期的に行う。

帝王切開だけでなく、器械分娩に伴う母児のインシデント・合併症を減少させる。



# クオリティインディケーター(QI)成果報告 〔産婦人科〕

## 指標名

① ロボット手術件数、②新規悪性腫瘍治療数

## 目標・ゴール

現状件数の維持ないし増加

## 目標・ゴール達成による効果

技術の習得、若手医師のリクルート

## 目標・ゴールに対する成果の状況

2022 年 ロボット手術件数 91 件、 新規悪性腫瘍治療数 105 例

2023 年 ロボット手術件数 71 件、新規悪性腫瘍治療数 125 例

図1 ロボット手術件数の推移

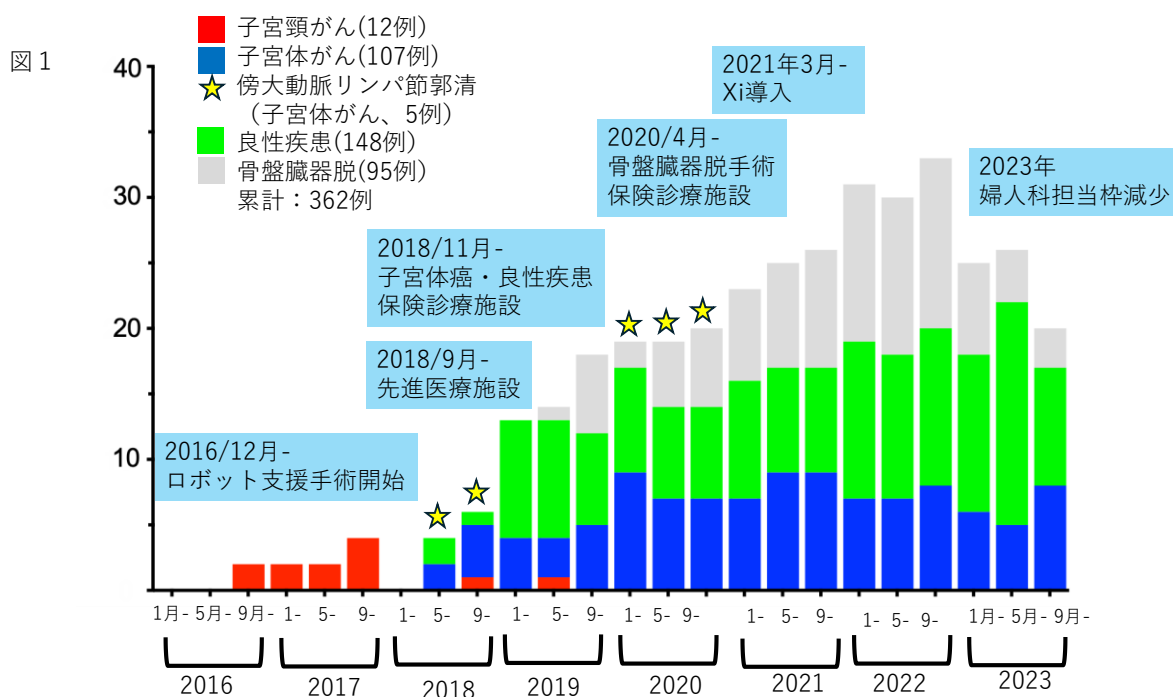


図2 婦人科悪性腫瘍治療数の推移（2023 年は現在判明分のみ）

図2



## 目標・ゴール達成度

※該当項目に☑をつけてください

☐S :大幅に目標を上回った

☐A<sup>+</sup>:目標を多少上回って達成

☒A :目標を達成(②悪性腫瘍治療総数)

☒B<sup>+</sup>:目標を少し下回った(①ロボット手術)

☐B :目標を下回った

☐C :目標を大幅に下回った

☐- :外的要因により継続困難となった。

## 目標・ゴールの課題・改善策

1. ロボット支援手術は他科でも盛んに行われるようになった関係もあり、2023 年よりロボット手術枠が変更・減少となった。そのため昨年までロボット手術で行っていた悪性腫瘍手術や、仙骨腔固定術を腹腔鏡手術で行わざるを得なくなった。仙骨腔固定術は他院よりもより多く手術件数を行っており、近隣よりご紹介いただくケースが多く、治療待ちの状態が長くなっている。子宮体癌手術においては他院に先駆けて傍大動脈リンパ節郭清や ICG によるセンチネルリンパ節同定を開始しており、近い将来には患者さんの状態による手術の個別化・低侵襲化に対応できるよう準備をしているが、手術枠の関係で一部滞っている。早急な手術枠の増加を望む。
2. 2022 年は COVID-19 の影響もあり若干の減少が見られたが、2023 年には一昨年以上の新規悪性腫瘍患者の治療を行っていた。また、婦人科腫瘍専門医数も順調に増え（現在 7 名）、また婦人科腫瘍修練医も現在 2 名在籍しており、婦人科腫瘍を専門とする医師も徐々に増えつ

つある。今後も安全に留意しながら治療患者症例数を増やしてゆきたいと考えている。